

府言「去月廿一日高良宮燒亡之由」

當社祭神の事、武内宿禰といふが舊説にして、さらに異論もなきを、今に至りて、連風が臆  
断を述むは、實に神慮の恐れあれど、年來心にかゝりて迷ひ侍りしを、こたひ思ひ得たる  
まゝ、竊に愚考を遺さむとす、それ高良といふは、原よりの地名にて、加波良と讀べし、其  
徴は、肥前國風土記に、昔者纒向日代宮御宇天皇巡狩之時、御筑後國御井郡高羅之行宮  
とあるにて著く、高良も香春も同名にて、高字を加波良と讀しは、日本紀孝德天皇卷に、天皇御  
行宮云々、空  
紀所引用に、田原郡香春郡、昔新羅國神自度到來住此、また和名鈔、近江國犬上郡甲良、今  
川原使名曰鹿春神、今も香春山麓なる河原村といふ、また和名鈔、近江國犬上郡甲良、今も川原  
雜太郎、佐波、肥後國合志郡、筑前國早良郡、佐波と讀る例也、さては玉垂命といふこそ神  
號なれ、其玉垂命て御名、式の神名帳より外になく、武内宿禰の別名といふ事も、他の書  
に見えず、抑玉垂命と稱へ奉る語勢、たゞく女神とのみ聞ゆるにはあらずや、諸社根元  
肥諸神等には、高良者藤大臣連保之御事、神號高良玉垂命、以于滿兩珠令奉行、故奉  
號玉垂、住吉明神之化身也、久留米志云、筑後四社之一、實爲三藩、又考證に、豐玉彦命歟といひ、  
次なる豐比咩神社の條に、高良乾涸名潮涸瓊、爲名歟、玉垂命海神豐玉彦命也、稱武内  
宿禰者非也、根元記、考證等も舊説の足さ、さては此玉垂命と申すは、比賣許會神亦曰下  
在、高  
良山にては玉垂命と稱へ、香春岑にては香春神として祭りしにこそあらめ、もとより相殿  
には八幡、住吉、武内宿禰も祭るべし、民部省圖帳殘缺に、高良玉垂宮、所祭玉垂命也、天  
平、年紀武内宿禰、荒木田邊津彦爲相殿とも見えたり、然るに武内宿禰を主神と成し

來りしは、彼蕃神てふ事を嫌ふ中昔の時勢にて、比賣許會神の主たるをかくして、武内と  
言ひ習ひたるが、竟に公家に及ぼしたるなるべし、宿禰を主神と崇めしは、因幡國宇倍神  
社也、宇倍神社のかへすくも、武内宿禰と玉垂命と一跡異名ならば、石清水を始め、處々  
の八幡宮の末社に、高良と宿禰とを別て祭るべき由縁なかるべし、是高良と宿禰とは、異  
なる證也、かくて古來の説を破り、微考を主張せんとはあらねど、いかにも疑ひ深けれ  
ば、思ふまゝ、を書つらねて、後勘の一助にせむとするのみ、

伊勢天照御祖神社

伊勢は假字也、天照御祖は阿麻呂留美於夜と訓へし、○祭神在所等詳ならず

久留米志云、今廢失其地、今高良山中有天照社、標以式四社之一非是、或云、社舊  
在、其下府中町、後遷之山上、

類社

山城國愛宕郡賀茂御祖神社の條見合すべし

神位

古文書、前御井郡正五位下伊勢天照名神、召問古老、申云、元來公家奉授之位也者、而位肥  
紛失、天慶七年四  
月廿二日

豐比咩神社

豐は登與と訓べし、比咩は假字也、○祭神明か也○在所詳ならず